



明君享保録

二

^ 13  
3303  
2



八 13  
3393  
2

波清



以名  
家  
孫  
承  
承  
卷  
之  
八

目錄

一 台  
字  
重  
印  
名  
氏  
一  
卷  
之  
八  
孫  
承  
承  
卷  
之  
八

一 台  
字  
重  
印  
名  
氏  
一  
卷  
之  
八  
孫  
承  
承  
卷  
之  
八

一 台  
字  
重  
印  
名  
氏  
一  
卷  
之  
八  
孫  
承  
承  
卷  
之  
八

一 台  
字  
重  
印  
名  
氏  
一  
卷  
之  
八  
孫  
承  
承  
卷  
之  
八

大正八年九月  
本大學出版部  
贈

心なき海原をゆく

まふまふのやうに  
まふまふのやうに  
まふまふのやうに

廣くはる海原をゆく

まふまふのやうに  
まふまふのやうに  
まふまふのやうに  
まふまふのやうに  
まふまふのやうに







多のぬけを將もくく  
ちのりぬ

仲光代に松林ら〜  
渡邊

書意云々  
佐美士将軍  
佐美士将軍



蘇庭方家  
今昔

文能  
海濱  
仲光  
中々

ちてしんら

花新うり大早申大新ちてしんら

大早申ちてしんらの由あてしんら

しんらあてしんらの由あてしんら

中きづく名敷列あてしんらの由あてしんら

射あてしんらの由あてしんら

射あてしんらの由あてしんら

しんらあてしんらの由あてしんら

下あてしんらの由あてしんら

ちてしんら

射あてしんら

ちてしんら

射あてしんらの由あてしんら

射あてしんらの由あてしんら

射あてしんらの由あてしんら

射あてしんらの由あてしんら

射あてしんらの由あてしんら

射あてしんらの由あてしんら

射あてしんらの由あてしんら





かゝるに依りて中絶し文を中絶し  
心細くも入りも此所感先は先代  
より一考考くして上へ下へ下へ  
し女を以て新井後居者といふ  
中より系が下へ下へ心養ふ者  
心細くも入りも此所感先は先代  
より一考考くして上へ下へ下へ  
し女を以て新井後居者といふ  
中より系が下へ下へ心養ふ者  
心細くも入りも此所感先は先代  
より一考考くして上へ下へ下へ  
し女を以て新井後居者といふ  
中より系が下へ下へ心養ふ者

五律 かのゆきまき 中絶  
心細くも入りも此所感先は先代  
より一考考くして上へ下へ下へ  
し女を以て新井後居者といふ  
中より系が下へ下へ心養ふ者  
心細くも入りも此所感先は先代  
より一考考くして上へ下へ下へ  
し女を以て新井後居者といふ  
中より系が下へ下へ心養ふ者  
心細くも入りも此所感先は先代  
より一考考くして上へ下へ下へ  
し女を以て新井後居者といふ  
中より系が下へ下へ心養ふ者



中尾 九

今上 御

かゝりていふにせむ

御群 人々此城をくすむの中

於軍家 一はさるる城跡はたれ

さるるくくすむあつりしものや

さしてのあつりしものあつりしもの

このあつりしものあつりしもの

あつりしものあつりしもの

あつりしものあつりしもの

けしきやまのあつりしもの

あつりしものあつりしもの

あつりしものあつりしもの

あつりしものあつりしもの


あつりしものあつりしもの

あつりしものあつりしもの

あつりしものあつりしもの

あつりしものあつりしもの

頼解人へ 行れ事よく  
少無法之の流を水成  
金用との事 解ほるるに  
とこ以事か つかさどる  
中を高く 印書高せん 作ら  
し所の事 大蔵  
書者におん成 しくも  
書字を別 しく印水磨り

隣國北よりみ水法せらる事  
と信おれりのこととたてり 信  
し 内法  
車空より 承り 入る 水  
け 

心なきを保水せしめ

